



心 友

№ 9

令和7年9月25日（木）発行
四万十市立中村西中学校
文責（校長）小野川 憲

とても暑い中での運動会！応援ありがとうございました。

9月13日（土）は雨の心配もしていましたが、当日は朝から天候に恵まれ、本当に暑い中で、運動会を行いました。昨年度は、途中大雨だったことを思い出していました。

当日は、駐車場の整理、ジュースの販売や後片付けまで、ご協力ありがとうございました。今年は本当に草が多く学校だけでなく周辺の環境整備も心配していました。8月に行った、草刈り等の環境整備のお陰で、当日も気持ちよく運動会を行うことができました。保護者・地域の皆様、本当にありがとうございました。

生徒は3年生を中心に、夏休みから準備をはじめ、暑い中、練習や準備に取り組んできました。総練習は雨で途中で中止になるなど、思い通りに進まないこともありましたが、3年生がリーダーシップをとり、限られた時間の中で質の高い競技に仕上げていました。本番は本当に暑い中でしたが、生徒は一生懸命・全力で競技に取り組み、思い出に残る運動会となりました。保護者やご家族の方々はもちろん、地域の方々にも多く来て頂き、最後まで生徒の競技に温かい応援を送って頂きましたことに、心よりお礼を申し上げます。

運動会は学校行事の中でも大きな役割を担っている行事です。当日までの取組を含め、競技や応援、生徒の係活動などを通して、生徒同士が協力し合い集団として高まっていくことと自己の成長が大きな目標です。終わったあとの生徒の皆さんの表情や解団式での言葉や歌を聞いていると、それぞれの団や学級に充実感があり、一人一人にも達成感があったように思います。この経験をこれからの学校生活に活かし、一人一人が充実した学校生活を送れることを期待しています。



横断幕（スローガン）・応援団旗

今年のスローガン「七転八起 ～諦めないハート～」の横断幕は2年生の有志の皆さんが作製してくれました。各色の応援団旗は各団の代表が作製してくれています。本当に丁寧に、気持ちを込めて作製してくれていました。各団の結束だけでなく、学校全体のまとめ、最高の運動会になる土台を作ってくれていたように思います。本当にありがとう。



運動会が終わってからの3年生の振り返りを紹介します。3年生がどんな思いで取り組んでいたか、どんな達成感を得たのか、ぜひ1・2年生に読んでもらいたいと思います。先輩の思いや取り組む姿勢がよい伝統となって引き継がれると嬉しいです。保護者・地域の皆様にも目を通していただき、ご意見やご感想などがありましたらお願いします。

【青団応援団長（3年1組） 篠田想太さん】

こんにちは、青団の団長です。僕が運動会で心に残ったことを紹介したいと思います。

一つは応援のことです。応援団は夏休みの間から、応援団で集まって演舞を考えたり、練習をしていました。部活をした後の1時間後に練習があるから、自分の自由な時間は少なくなったけど、その分応援団のみんなでエール交換や演舞を作り上げていったのがとても楽しかったです。応援練習では、教え方が定まっていなくて覚えるペースに差が出てきたりしたのが難しかったけど、練習をしていくほど青

団全員が完璧に覚えるようになってくれて、良かったです。本番では応援賞は取れなかったし、目標の3分から少し遠かったけど、青団の最大限の演舞ができたので、自分史上最高の演舞になりました。

もう一つは競技のことです。総練習ではオレンジにめちゃくちゃ負けまくっていました。本番でそうならないように、もの奪いの特訓をしたり、男子はリレーの特訓をして、本番では、もの奪いも勝って、男子のリレーは2位を狙って取ることができたから、作戦を立てておいて良かったと思いました。

最後に、僕は青団団長として運動会期間を過ごしてきました。みんなの前で発言することがめちゃくちゃあったから、めちゃくちゃ成長できました。それと、今まで、自分は三冠を取ることを目標にやってきたから、本番で取れなかったのは悔しかったです。でも三年間の最後に、青団のメンバーで二冠を取ることができて良かったです。青団のみんなついてきてくれてありがとうございました。せーの、Power。せーの、いいね。



【オレンジ団応援団長（3年2組） 川波颯介さん】

3年にとって中学校最後の運動会でみんなを総合優勝させることができず、悔しい気持ちとともに申し訳ない気持ちがあった。でも今更そんなことを言っても終わったことは変えられないので負けは負けとして頭の片隅に置くと決めた。

なのでここからは僕の運動会の思い出をいくつか紹介していく。

まずはみなさんからしたらどうでもいいであろう僕の自慢を1つ挙げる。僕は小学校6年間+中学校3年間で運動会の100mで1位以外になったことがない。総練習も含めてだ。「なんだそんなことかよ」と思う人もいるかもしれないが、実際この僕の話を読んでいる人の中に9年間無敗という超伝説級の称号を持っている人はいるだろうか。いたら名乗り出してくれ。俺と勝負をしよう。

おっと、ついつい熱く語りすぎてしまった。ここからは本当に僕の思い出を紹介する。

応援練習のときは体育館が暑かったり、休憩時間が少なかったりでしんどくてやりたくないとみんなが言っていたが結局は応援団についてきてくれて、応援賞をオレンジ団の仲間や、支えてくれた先生のおかげで取ることができた。

僕の一番の思い出はこのオレンジ団で応援賞という最高の賞をとれたことだ。



【青団（3年1組） 体育部長 川村まりさん】

今年の運動会は、中学校生活最後の運動会であり、3年間の中で初めて晴れた天気の中で開催されました。初めてクラスで団となって運動会に取り組むことができ、1・2年生の頃よりも一番心に残る運動会になったと思います。総練習では大雨が降り、途中で中止になってしまって、「もの奪い」ではオレンジチームが2回連続で勝ち、しかもオレンジ1人に対して青が2人いても負けてしまい、「本当に勝てる方法なんてあるのか」と不安になったこともありました。「もう無理かもしれない」と諦めそうになったこともありますが、女子の応援団を中心に、女子全員で作戦会議を開き、「勝つ」ことよりも「耐えて相手に点を取らせない」作戦などを話し合いました。その結果、本番では青チームが勝つことができて、

本当に嬉しかったです。また、暑い中でのダンス練習や、その後に続く応援練習が続き、内心「面倒だな」と思ってしまうこともありました。でも、応援団の仲間たちが「いいね!」「いい声だね!」と優しく声をかけてくれたことで、だんだんとやる気が出てきて、「青団でよかったな」と心から思えるようになりました。体育部長としては、最初の全体練習の時、自分がいつ笛を何回吹けばいいのか分からず、先生を見ながら動くことが多く、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、全体練習を重ねるうちに、みんなの動きがどんどん揃っていき、体育部長でしか見れないような素晴らしい姿を見ることができました。また、たくさんの友達や先生方から「お疲れ様!」「いい声だったよ!」と声をかけてもらえて、とても嬉しかったです。

運動会本番で心に残ったことは3つあります。1つ目は、男子の綱引きや1・2年生の種目の時、青団のみんなが喉が痛くなるほどの大きな声で応援していたことです。応援している自分たちも楽しくなるくらい、必死に声を出していて、その姿がとても印象に残りました。2つ目は、「もの奪い」での出来事です。総練習ではオレンジに大差で負けて、とても悔しい思いをしました。でも、昼休みや放課後の係会の時間など、短い時間を使って女子だけでなく3-1全員で練習を重ね、本番では青が2連勝しました。掛け声や動きも息が合っていて、「最後まで諦めずに頑張れば必ず結果につながる」と実感しました。やっぱり、練習は期待を裏切らないなと思いました。3つ目は、成績発表の場面です。私は青団の所に戻るのを忘れてしまって、朝礼台の後ろから発表を聞いていました。一の位が発表された瞬間、嬉しさと同時に自然と涙が出てきました。私は普段、嬉し涙を流すことはあまりないのですが、青団の方を見たら、泣いている人や笑っている人、ハグをして喜んでいる人たちがいて、今まで炎天下の中で頑張ってきた練習には、ちゃんと意味があったんだなと感じました。



【オレンジ団（3年2組） 生徒会長 北代花帆さん】

ついに、西中で中学校最後の運動会がきた。もちろん、応援団。



1学期の色決めるとき、絶対にオレンジがいいと強く願っていたら颯介がオレンジの紐をひき、嬉しすぎて心の中で発狂していたつもりが少し声が出てしまっていた。私は、3年連続オレンジの応援団だということが決まった。1.2年の運動会は、優しくて面白くて最高な先輩たちに恵まれ、オレンジ団で2年連続応援賞と校歌賞の2冠を取ることができた。今年もオレンジ団だと決まったその時、2年間の先輩たちの思いも受け継いで絶対に今年こそは応援賞・校歌賞+優勝で3冠を取ってやる!という強い気持ちにさらに大きな火がついた。

そこから夏休みに入ってから応援団練習では、青よりもかっこよくて感動する演舞を選び、自分から色んな意見を積極的に出して振りも早くに覚え、1.2年と一緒に練習ではわからない人に教えてあげたりやってほしいことを伝えたりした。

2学期に入り、体操服登校で運動会練習ばかりになってきたころ、忘れ物をしないように声をかけたり、全体練習ではやくみんなに並ばせたり応援練習では積極的に声を出し指示を出し情熱も出して全力で取り組んだ。総練習では、自分が出る競技から本気で取り組み、1位を取りに行き、勝ち、応援し、途中雨で中止になったけどオレンジが30点リードくらいで勝っていた。大縄も3年2組が1位で22回も飛ぶことができて、最高に嬉しかった。

ついに本番。4年連続雨という不運な運動会続きだったけど中学最後でついに晴れ。私達の熱い気持ちが届いたような気がしてすごくうれしかった。最初の行進では校旗を手に持ち先頭を歩いた。開会式は真剣に取り組み、午前の応援合戦では今までの練習の成果を発揮して最後までバチッと決めることができ

た。タイムはなんと1分59秒だった。応援賞の未来も少し見えたところで学級対抗長縄跳びが始まった。総練習では22回で1位という結果を残せたから、本番は30回飛ぼうという強い意志をもって挑んだけど結果は16回。少し悲しかったけど、その時は今までにないくらいみんなが一つになっていたから楽しかった。100mも1位フィニッシュで他学年の競技が進んでいき、ダンスになった。練習からすごく楽しく、本番も輝くような笑顔で踊りきれた。(と思う)そして今年初めての部活動対抗リレーでは、部活動に入っている生徒だけでなく先生も参加していたからすごく盛り上がり、1位かと思われていた陸上部がバトンミスをしていてサッカー部がタイムで一番になっていたのが面白かった。それと同じくらい萩原先生のスタートダッシュや中西先生の爆走もすごく面白かった。もの奪いでは総練習で三連勝だったのに、昼休みなどに練習していた青にボロ負けだった。自分は棒担当だったけど2回とも棒を取れなくてタイヤも青に取られてしまって青の勝ちだった。楽しかったけど、他学年の競技もオレンジがたくさん負けていて絶対ここは取るという気持ちがとても強かった分、悔しすぎて涙が止まらなかった。学年種目では最後の組(トリ)だったからがんばって1位狙って走って3位くらいだった。その後も自分が貢献できることはないからオレンジが勝てるように声が枯れるくらい声を出して応援して最後の方になってきた。残すは綱引きと色別リレー。得点が高い競技で取るぞと思い、みんなに声をかけ、全力で取り組んだ。綱引きは男女ともに負けてしまったが、リレーでは男女ともに1位が取れた。運命の閉会式。成績発表で、オレンジ負けたかなと心の隅で感じていたけど2点差だった。余計悔しくて勝ちたかったけど、自分たちが一番取りたかった応援賞が取れた!!!!!!ただただそれが嬉しくてオレンジで良かったと心のそこから思った。最後まで全力で取り組んで、帰ってから親や親戚、友達の親などにたくさん褒められてうれしくて最後までがんばって良かったなと思った。

大好きな西中で最後の運動会、本当に最高に一番楽しかった。



「大阪交響楽団」が来校してくれました。～文化庁 令和7年度「学校巡回公演」～

9月18日(木)に「大阪交響楽団」が来校し、生のオーケストラ公演を間近で聞くことができました。文化庁の「学校巡回講演」に応募し、来ていただくことになりました。

この「学校巡回公演」は、全国の小・中学校等において、文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担う全ての子どもたちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的として行われています。本物の迫力ある生の演奏をこれほど間近で聞く経験はなかなかないと思います。感想を少し読みましたが、「感性や情緒」が揺さぶられただけでなく、指揮者と演奏者が呼吸を合わせ、全員で1つの音楽を作り上げる姿に感動した生徒や、プロの演奏家の姿に触れ、「好きなことを極めて生きる」姿に関心を持った生徒もいました。皆さんがにとって、これからの生活で何か1つでもプラスになっていることを期待します。

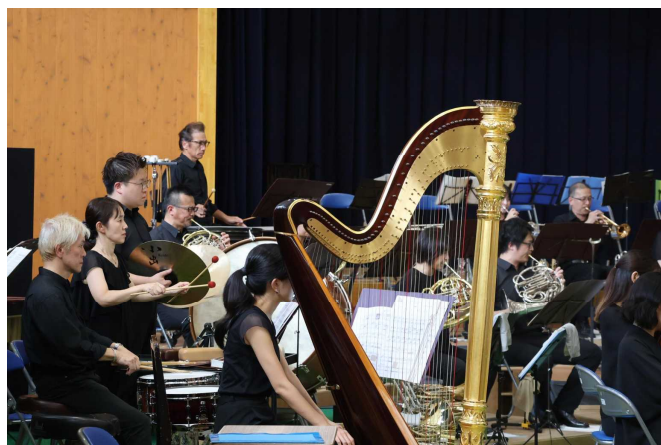


【生徒の感想】

演奏会では、それぞれの楽器が出す音色は、聞いている人にもすごくいい音になっていて、知らなかった楽器や奏法の分からない楽器もあったけど1つ1つ丁寧に話してくれて嬉しかったです。正直、私は、オーケストラはテレビでしか見たことがなかったけど、今回生で見れて嬉しかったです。一人一人の心が1つになってこの演奏ができていて見る人にとってすごく迫力を与えてくれました。良い演奏をありがとうございました。

今日の演奏は、すごく衝撃的でした。理由は、曲によって音色がガラッと変わるし、物語に入り込めたような気持ちになったからです。音色だけではなく、演奏法も印象に残りました。曲のパートごとに、弾く位置や吹く強さを変えていてすごいと思いました。呼吸のタイミング、音を出すタイミング全てが完璧でいい経験になったなと思いました。オーケストラに興味がわきました。テレビやスマホで見るよりも、実際に見た方が迫力が感動がすごかったです。

今回の演奏会で初めてオーケストラを体験したけれど、私の想像をはるかに超えてきて、これがオーケストラの迫力なのだと感じさせられました。1つ1つの楽器は奏法も音色も大きさも全て違うのに、音を奏でると1つの音楽となることが聞いていてすごかったし、白鳥の湖では、お姫様の気持ちや王子様の焦りなどが物語を超えて実際にオーケストラによって、それぞれの情景を表す担当の楽器を中心に、強弱などを楽器の組み合わせなどで表現されていて、感動しました。また、このオーケストラをまとめる指揮者の方は、体全てを使いながら1つの音楽を指揮していて本当にすごいと思いました。オーケストラは何1つ欠けてはならないものだと思います。



生徒による指揮者体験コーナー